

## 第57回国立大学図書館協会総会ワークショップB 議事要旨

日 時 : 平成 22 年 6 月 18 日(金) 15:00~17:30  
会 場 : 札幌パークホテル パークホールC  
テ ー マ : 大学図書館の新たなサービス展開と図書館組織・人材育成について  
司 会 : 藤井讓治(京都大学附属図書館長)  
司会補助 : 川瀬正幸(京都大学附属図書館事務部長)  
記 録 : 白木俊男(大阪大学附属図書館図書館企画課長)  
: 島 文子(大阪教育大学附属図書館学術情報課長)

### 第1部「大学図書館の新たな展開」

- 1) 細戸康治大阪大学附属図書館事務部長から、「ラーニングコモンズを活用した新たな図書館サービス」と題して、大学図書館を取り巻く状況が Teaching から Learning へ大きく変化したなかで、利用者ニーズを考慮した図書館のゾーニングを行い、自主的な課題解決型学習を支援するティーチング・アシスタント(TA)を配した「ラーニングコモンズ」を新たに整備したことについて、事例報告があった。
- 2) 岡部幸祐金沢大学附属図書館情報サービス課長から、「カフェのある図書館空間 一本を媒体とした出会いと対話を演出する」と題して、長期滞在型図書館にはアメニティ空間が必要であるとのポリシーのもと、ブックラウンジにカフェをつくり、図書館内に文化サロンの空間を設置し、本を媒体とした出会いと対話の場を提供した事例報告があった。
- 3) 川添真澄名古屋大学附属図書館情報システム課長から、「教育・学習支援空間 ー教員・学内組織との協働の試みー」と題して、教員との協働による授業連携、学内他組織との連携によるライティングサポートの事例などが紹介された。また、教員・図書館職員・TAとの共同の教育・学習支援空間としてのラーニングコモンズの説明があった。
- 4) 上記事例報告の後、以下のとおり意見交換を行った。
  - ラーニングコモンズをつくった後、どのような反省点があったかを教えてほしい。
    - ・ラーニングコモンズは、静かに学習したい学生のスペースの確保など、図書館の全体構成を見極めた上で設置しないと、単に学生が集まって議論する場となる。
    - ・ラーニングコモンズは場所を提供すればよいだけではない。TAの配置などその場所で行うサービスを同時に整備できなかった点が反省点である。サービスの整備を今年度の課題として、ラーニングコモンズの運営部会を設置した。
    - ・資金や建物の制約で当初予定していたようにはならない場合がある。そのため、何を我慢し、何は譲れないのか、しっかりと方針を決めておく必要がある。管理面を考えてシンクライアントサーバを導入したことは有効。当初計画より家具が減り、余裕のある空間になったことは結果的には良かった。
    - ・ラーニングコモンズでの協働を想定している場合は、早い時期から学内の他部署としっかり話を詰めておく必要がある。
  - TA はどのように選定しているのか。TA、サポートスタッフ、ピアサポーターなどの違いは何か。
    - ・TA の推薦は研究科長に依頼している。博士前期・後期の学生が多いため、いずれ教育者・研究者となる院生へのFDの一つとして、図書館活用法や学部学生への指導技術を獲得することも趣旨としている。

- ・TA は授業支援のため、図書館の雇用ではない。図書館がパート職員として雇用するサポートスタッフ、学生相談総合センターがボランティアとして募るピアサポーターなども活用している。
- ラーニングcommonsの新たなサービス機能について、どのように評価しているか。目標値はあるのか。今後アンケート調査やインタビュー調査などを行うのか。
  - ・入館者数・貸出冊数・滞在時間などの定量的な数値だけではなく、質的な評価をどのように行うかを考えていく必要がある。
  - ・2年に1回、LibQUALによるアンケート調査を実施し、学生の満足度、期待度を評価・分析するようにしている。
  - ・利用数の増加を狙っているわけではない。図書館が教育により深く関わるための装置としてラーニングcommonsを設置した。図書館と職員が変わるということをアピールし、図書館の活動を「見える化」することが必要である。
  - ・学生がラーニングcommonsで何を身に付けたのか(アウトカム)をとらえなければならない。
- ラーニングcommonsをどのように学生に周知しているか。そこでの学生同士の関係性をどう作っていくか。学生の居場所、活動場所としての設置なのか。
  - ・1年生全員が受講する授業に図書館担当のコマがあり、その中でラーニングcommonsの使い方を紹介している。
  - ・基礎セミナー担当の TA がラーニングcommonsを案内していることが多いので、自然に広まっている。
  - ・改修工事の囲いにラーニングcommonsの完成予想図を貼ったり、完成後に大学広報誌に大きく掲載したりしたことが効果的であった。
  - ・オープンな場所でイベントを行うと、参加者でない人も興味をもつ。研究者の発表会などが学生に見えることで新たな関係性が生まれるのではないか。
  - ・友達がだれか来ているから、とりあえず図書館にいつてみる、という学生も出てきている。
  - ・学生がどのようにラーニングcommonsを使っているか、どのように指導していけばいいかなどについて、教員の協力も得て調査を行いたい。
  - ・学生の居場所、活動場所としては、教育実践センターが設置するスチューデント・commonsがあり、ラーニングcommonsとの棲み分けができています。
- カフェのある図書館空間にした結果、資料の汚損やゴミの放置などの問題はないか。
  - ・飲食できるスペースを制限しているため、本の汚損やゴミの問題は発生していない。
  - ・ブックラウンジ(カフェのある飲食可能スペース)での飲食は、カフェで販売する軽食は認めているが、持ち込み弁当等は禁止している。今のところ持ち込みのゴミが溢れることはない。
  - ・ロビーにはカフェができ、ゴミ箱はなくなった。紙カップの持ち込みなどはあるが、目に余るほどの状態ではない。

## 第2部「大学図書館の組織と人材育成」

- 1) 江川和子お茶の水女子大学附属図書館図書・情報チームリーダーから、「新たな図書館サービスが生み出すものー協働と人材育成ー」と題して、新たに開設したラーニングcommonsやキャリアカフェへの取り組みを通じ、図書館職員のサービスに対する概念の変革が起こり、そのことが人材育成に繋がっていく事例報告があった。
- 2) 石井道悦広島大学図書館副図書館長から、「図書館組織及び人事政策に関するアンケート

調査から」と題して、平成 22 年 1 月に人材委員会で実施したアンケート結果をもとに、非正規職員が大幅に増加し正規職員より多くなったこと、事務組織の縮小傾向、管理職を含めた人材確保・育成の必要性、職員採用方法の多様化、図書館の役割を明確にする必要性などについて報告があった。

3) 上記の報告後、ワークショップB全般について、以下の意見交換が行われた。

- 図書系職員も非常勤職員も少ない職場では、職員のモチベーション向上を図ることが難しい。モチベーションをどう引き出すか教えてほしい。
  - ・職にこだわらず、課題に向かって協同する体制を取っている。非常勤職員にも講習会の講師なども行ってもらい、チャンスを与えている。
  - ・大学によって状況は様々ではあるが、チームとして問題解決をするときにはコアになる人材が必要である。
- TAを有効に活用することが肝要であると考えているが、TAの基本は授業のサポートである。図書館で活用するためにはどうしたらいいか。
  - ・TA、アカデミックアシスタント、LiSA などさまざまな制度を活用して、学生を巻き込んで図書館の活動をしている。図書館の広報や展示企画などを、学生と一緒に実施している。
  - ・学生アルバイトを採用し、ライブラリ・アシスタントとして雇用したいと計画中である。
  - ・図書館でのTAの導入は、共通教育科目の授業改善の一環として配置されるようになった。図書館職員がTAを教育し、TAが学生に教える形で実施している。
  - ・TAの予算要求を全学の教育情報化会議に付議して正式に予算化された。TAを単なる労働力ととらえるのではなく、その活動を通じて将来の教育者・研究者としての資質が磨かれることを強調する必要がある。
- 図書館は大学の中では閉じた組織である。教員とのネットワークをどのように作ってほしいか。
  - ・図書館職員と教員とがお互いに顔が見えることから、ネットワークが生まれる。
  - ・管理職は教授会や役員会などで図書館のアピールをすることが重要である。
  - ・図書館の「見える化」は教員からの協力をとりつけるためにも重要であり、大学全体にとって図書館の活動がどう貢献するかを図書館以外の人にわかってもらう努力をすることが大事である。
  - ・ラーニングコモンズでの授業などを手始めとして、教員との連携の輪を広げていく機会としたい。
- その他
  - ・電子ジャーナル購入、リポジトリ構築、ラーニングコモンズの導入が、大学間格差やキャンパス間格差を広げている一面がある。ラーニングコモンズは場所に付帯するので、互いに助け合うことができないが、全国の国立大学が集まっている以上、学生の立場から見て何かもっといい方法がないかを真剣に考える必要がある。

最後に

司会者から、TAは原則的には教育のアシスタントだが、それをどのようにうまく位置づけるかなどを学んでいただきたい、また、ラーニングコモンズを計画中の図書館は、本日の議論を参考に他大学等の経験をうまく共有していただきたい旨のまとめがあり、ワークショップを終了した。